

【罪人を救う為に来られたイエスキリスト】



聖書本文:ルカの福音書5章27-32節/今週暗唱聖句:ルカの福音書5章32節

説教者:鄭南哲牧師

(Rev.Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！アドベント第3週目の主日礼拝にお越し下さったみなさん一人一人を主イエスキリストの御名によって心から歓迎し、イエスキリストの平安と御恵みがみなさんとご家庭の上に豊かに注がれますように切にお祈り申し上げます！隣、前後の方々に挨拶を交わしましょうか。シャローム！今週中にもイエスキリストの平安が溢れますように！

ルカの福音書にはこの地に来られた神の御子イエスキリストが実際なされた行跡(ぎょうせき)を記録されておいた聖書であります。実際人間の姿を取り、来られた神の御子、救い主イエスキリストは人々の病を癒し、悪霊にとらわれていた人たちに悪霊を追い出し、だれでも神の御国に入るためにどのようにするべきか神の福音を述べ伝え、教えて下さいました。この地に来られた神の御子イエスキリストはなぜそのようなになされたのでしょうか。

本日はアドベントが始まる 1 週目の主日礼拝としてイエスキリストがこの来られた目的、そして、そのようになされた目的が何だったのかよく教えて下さる出来事の御言葉であります。結論的に言いますと、つまり、イエスキリストは罪人たちを(罪人たちである我々も含め)招いて、悔い改めさせ救うために来られたと教えて下さっています(32節)。

1.先に訪ねて来られたイエスキリスト

今日の本文27節では当時罪人であった収税人レビという人を招いてイエスキリストの弟子とさせる内容が記録されています。27 節に「この後、イエスは出て行き、収税所に座っているレビという取税人に目を留められた。「わたしについて来なさい」と言われた。」マタイの福音書9章にも同じ内容が出ています。このマタイの福音書ではこのレビについて具体的実名を記録しています。彼の名前はマタイだったと紹介しています。聖書学者たちはマタイとレビ二つの名前を持っていたと主張する意見もあり、レビだと言われたのは彼が旧約12部族の中レビ族の子孫であったことを表す為であったとも指摘しています。とにかくこの収税人は収税所に座って税金を徴収する仕事をやりました。収税人はイエス様の当時、イスラエルを支配していたローマ帝国の請負(うけおい)師(請負業者)のような人でした。つまり、当時収税人という者はイスラエルを支配していたローマに借料(しゃくりょう)を払って税金徴収(ちょうしゅう)権の委託(いたく)を獲得していたので、イスラエルの人々に直接税金を徴収(ちょうしゅう)していた民間業者たちでありました。しかし、彼ら収税人たちはその権利を悪用し、人々に無理やりに過度な税金を奪い取ってローマには本来決まっていた部分だけを捧げた後、残り多くの部分は自分の所有にしていたので、当時収税人たちはみんな金持ちが多かったわけでありました。

ですから、収税人たちは当時社会で経済的にはとても裕福な生活をしてはいましたが、心には二つの重荷を負っていたのです。その一つは収税人たちが自分の同族(どうぞく)を支配していたローマの為に働いたため、同族イスラエルの人々には民族の反逆者(はんぎゃくしゃ)であったことと、もう一つは当時苦しんでいた同族のイスラエルの人々に税金を過度に賦課(ふか)させ、そこから自分達は食べ暮らしていたので、公共(こうきょう)の敵、みんなの敵的な存在になっていたという重荷でした。それでイスラエルのユダヤ人たちは罪人と体表的な存在として見なし、決して収税人たちと接触すらしようともせず、彼らが聖殿の礼拝に参加するのも禁止させていました。収税人たちたちがいくらたくさんのお金を持っていても、彼らが聖殿に献金を捧げようとしても一切収税人たちのお金が汚いお金として断っていたのです。

イスラエルの知恵の本として伝わって来たタルムードという本にも人として扱ったり、接してはいけない詐欺師の種類として、ばくち打ちと収税人だと書かれていたほどだったので、当時の社会でどれほど収税人という職業の人たちはみんなからどれほど嫌われ、憎まれ、恨まれていた存在であったのかがよく理解できると思います。

しかし、本日聖書に出ている収税人だったレビ(マタイ)はイスラエルのレビ部族に属されていた人であることが分かります。旧約の12部族の中でレビ族は祭司長系列の聖職者の家門であり、神の聖殿の働きのために選ばれた敬虔な部族でした。レビ族の人たちは自分たちが神の聖い働きのため、神に召された身分である事を忘れないようにする為にいつも

赤いタオルをいつも身につけて生きようにしていました。そんなレビ族の系列であり出身だった今日の本文のレビマタイでしたが、彼はどんな方法や手段では関係なく、お金をたくさんもうけ、持つことだけが人生の真の成功者、幸せだと信じ込んでいたような人でした。彼の人生の中でどんな理由があったの為なのかは分かりませんが、お金の為なら、信仰も、自分の良心も捨てて、周りの関係が切られても関係ないと思っていました。そのため自分の同族まで裏切る生き方をずっと保って来た者でありました。彼は金さえあれば全てが自分の願い思い通りに人生が出来ると思っていたのか、他の人とはどうでもかまわない、金だけあれば、きっと成功した人生になれると、金だけが人の全てであり、最高だと思い込んでいたように見えます。

イエスキリストと出会えたその日にも一銭ももっと設けようとして、収税所にすわっているのをイエスキリストが目留めて下さいました。彼が先にイエスキリストを探しても、求めてたのありませんでした。しかしその収税人レビの本当の心の状況と人生全てをご存知であったイエス様は先に目を留めてくださり、訪ねて下さったのです。お金をもうける為金以外の物は全てを捨てて、お金だけを第一にして一生懸命働いて来たのにも関わらず、まるで水を注いでも注いでも満たされず穴があって水がずっと漏れている器のように、心には満たされてない虚しさがあったと思います。

お金さえあれば、人も、何でも自分の欲しいものを手に入れると思ったのに、お金はもうけたのにも関わらず、実は今自分の周りにはだれもないような人生の孤独と寂しさに耐えがたい日々を送っていたのではないのでしょうか。

自分の周りにはみんなありのままの自分よりも自分のお金や財産ばかり狙っている人々まかりのように感じ、心から自分を受け入れてくれる人たちがなかなか見えず、みんなを疑ってしまっている自分のため、自分の家族さえも苦しませていたかも知れません。

周りに受け入れられず、みんなの敵の存在だったから、毎晩だれが自分の命や自分のお金を狙って盗みに、殺しに来るのではないかとその不安と恐怖に襲われていたためなかなかぐっすり眠れない晩を送っていたかも知れません。

目の前にお金がたくさん見えることに心強く、頼りになっていると思っても、実は心深いところにはもう一度自分の人生をやり直せるなら、そうしたいと人生の深い後悔をしていたかも知れません。だれにもあらわしてはなかったのですが、このレビの心、人生そのものをすでに読んでおられ、知っておられたイエスキリストは彼に早速こう語ってくださいます。

27節に「わたしについて来なさい」と。それに、28節にレビはどう反応しましたか。そのイエスキリストのお言葉に、レビは迷わず、待ってたかのように、「するとレビは、すべてを捨てて立ち上がり、イエスに従った。」

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！イエスキリストを信じるということは、ただ毎週教会の礼拝に出席することが全部ではなく、イエスキリストに心に受け入れ、そして実際キリストについて行く事、イエスに従っていくことを言います。イエスに従う、ついて行くという事は、イエスキリストの御教えを学んでそれを信じ、その通りに実際実践し行うことを意味します。何を学びますか。聖書を通して救い主イエスキリストの生き方を習います。イエスキリストの生き方は二つ、イエスキリストの内側の人格と品性、そしてイエスキリストの行いを意味します。

アドベント 3 週目愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！我々も自分の信仰の年数を誇るクリスチャンではなく、ますますイエスキリストに似た者として変えられ、実際イエスキリストが教えられた御言葉通り、行われたその生き方について行く全クリスチャンプレイズの信仰の家族となりますように主イエスキリストの御名によって祈ります。アーメン！

今日の本文に出ているレビ人この収税人はイエス様の弟子達の中4番目に呼ばれた弟子であります。

その前にすでにイエス様の弟子として呼ばれた3人の弟子たちがいました。ペテロ、ヤコブそしてヨハネでした。

彼らは経済的には貧しかったかも知れませんが、平凡な普通の漁師出身の人でした。

しかし、今日イエスキリストが弟子として呼んで下さっているこのレビの人は人たちから怒りの対象でした。

先にキリストの弟子として呼ばれたこのペテロ、ヤコブ、ヨハネもこのレビの収税人にしぼりとられた(搾取(さくしゅ)された)はずでしょう。**イエス様の弟子達の構成！どうしてもイエスとは似合わない弟子達の組み合わせではないでしょうか。民族の反逆(はんぎゃく)者！みんなの敵、罪人の中の罪人を呼んで下さって、その人に捕らわれ、苦しめられた人**

たちと一緒にあって新しい神の共同体を建てれるように使命を与えて下さったのです。

2. 罪人と共にして下さるイエスキリスト

するとレビは、イエスキリストのお言葉通り、何もかも捨て立ち上がってイエスに従いました。

イエスキリストを通して、彼の心に、人生の中で縛られていた事から解放され、自由と喜び、感謝が、溢れたでしょう。

そして、新しい人生の目的を見つけることが出来ました。

29節に、彼がその後、何をやりましたか。「それからレビは、自分の家でイエスのために盛大なもてなしをした。取税人たちやほかの人たちが大勢、ともに食卓に着いていた。」

レビの人は自分の家でイエス様を招待し、宴会を開き、盛大なもてなしをしました。

ここでわれらが、**注目すべきことは、このレビが大きな宴会を催(もよお)す場所です！ある宴会場でも、食堂でもなく、自分の家であった事に注目して見て下さい。**

自分の家でパーティーをひらきました。この自分の家がまるで教会だったのではありませんか。

まるで教会のようにイエスキリストを招き入れ、イエスキリストの御言葉を聞きながら、キリストとともに自分と関わっている人々と共に交わる時でした。

人々は時々家庭生活や信仰生活を分離(ぶんり)しようとしていました。信仰生活は教会でだけするもので、家では信仰とまったく関係なく、日常の生活だけをする場所かのように考え込んでいる人々がいます。しかし、我々の教会には共に日曜日に共同で礼拝を捧げる時以外にも家の教会の集い(牧場)を集まっています。家の教会をする大事な目的の一つは、信仰生活と家庭生活を一致となるように、一つになるようにするためであります。家が教会のようになる事です。

イエスキリストを受け入れ、信じた人々は教会でだけじゃなく、自分が日々生活している空間、自分の家庭、家族の中にもイエスキリストを迎え入れようと、それで共にキリストと歩もうとします。

本日レビは自分が住んでいる家でイエスキリストを迎え入れ、イエスキリストの為に食事を整え、知り合いの人々をも招き、自分のように、イエス様と出会える機会を与えようとしていました！

みなさんも、本日教会で礼拝の時だけではなく、みなさんの家庭も開き、イエスキリストを迎え入れ、人々とともに喜びと感謝の分ち合い、共に祈りあう時を望むみなさんとなりますように切にお祈り申し上げます。それが牧場であり、家の教会であります。**レビが自分の家で宴会を開いたというのは、自分の人生、家庭にイエスキリストに差し出し、オープンし、公開(こうかい)した、正直に自分の生活を分ち合ったという意味**であります。長く信仰生活をされた方であっても教会だけの信仰の生活をする人々は実際あまりお互いには知りません。本当の自分を閉ざし、公開しないからです。家庭での本当の自分、実際生活が分からないからです。自分を公開しないとキリストのまことの治癒と変化はありません。その意味で考えれば、**大切な一つの信仰生活のゴールは、教会でと、家での生活が同じく出来るようにする事だ**と思います。**家と教会での信仰の姿(神を愛し礼拝する+人を自分のように愛し仕える)が一致することでしょう。**

今日**レビマタイは、イエス様を受け入れてから、ずっと遮断し、だれにも見せたくないまま隠していた、自分の家も開きました！**これからは自分の全てを喜んでオープンできるようになりました！それで自分だけではなく、きっと自分の全ての家族にも、そして、周りの人々にも自分が受けた神の救い、罪赦し、自由と解放を体験出来るような素晴らしい機会となったのに間違いありません。

レビマタイは自分の家に誰を招きましたか。**29節を見ると「取税人たちやほかの人たちが大勢、ともに食卓に着いていた。」自分と似た人々、自分と似てる状況にいる人々を招いたと思います。**

自分と似てる状況になっている人々、自分と同じように罪人として扱われている取税人たち、お金はたくさんあっても幸せじゃない、心を悩んでいる人々などだったのではないかと思います。

そのような人々がマタイの家におられるイエス様と出会って心の重荷を下ろし、罪が癒され、その家にさらなる神の救いがおとずれたと信じます。なぜそのような人々を招いたのでしょうか。私のようにイエス様と出会って変わってほしい、私のように、新しい人生を見出してほしい！それで彼らを招いたでしょう。それが本当の伝道だと信じます！

イエスキリストの本当の意味で恵みを経験した人は、自身にあわれみを施して下さった神様の心に似て行こうと努力します。そのような人は、どうやって自分のものを分け与えようか、どうすれば相手のためになるだろうかと悩みます。ま

た、主が与えて下さったものに感謝し、主からただ受けた慰めと励ましを、イエスキリストを見習いつつ、喜んで分け与えます。自分の基準で人を判断せず、人をさばかず、相手も神に愛されている存在として尊重し、丁寧に親切に接し尊ぶ言葉を語ります。そのような人は人々からも大切にされます。神の恵みと愛を経験した人はその恵みと愛を分け与え、兄弟姉妹たちもそう経験することを切に願い、神の愛と恵みが必要な人のために祈り、その心がとりなしの祈りへとつながります。「主よ、今この人にもあなたの愛と恵みをお与えください」と我らが切に祈れるなら、一層神の愛と恵みが満ち溢れた神の家族共同体となるでしょう。

宗教的な義務感でも、だれかからの強制的なことがあったから決してありません。自分の体面のためでもありません。イエス様と出会う前までこの収税人がいくらお金をあっても、実は不幸で暮らしていました。彼の回りに家族も、仲間達も、知り合いもたくさんいても、なぜか生きることが退屈で、生きる意味と目的が分からず、孤独で、寂しい人生のレビマタイの人生でした。しかし、今日イエスキリストと出会って、心の全ての重荷を下ろせた、罪の鎖から解放された！もう自由になられた、生きる新しい意味と目的を見つけた！だから、あなたもわたしのようにキリストを通して命と自由を味わってほしいと思って、愛する人々、隣人たちを招いて家で食事会を開いたわけでありました。**収税人マタイの家は、イエス様と愛する人々と共にする天国のような祝宴の場となりました。みなさんの家庭も神の御国のようなところになってほしいければ、みなさんの家もキリストをお迎え、差し出し、開いて見て下さい。必ず、全てを人生を、家庭を愛され、祝福しようとしておられるキリストがみなさんの家庭にもともにおられ、見守り、交わり、恵ませ、祝福して下さいと信じます！！**

ところが、当時宗教指導者たちはこのようなイエス様の救いの御業を感嘆し、認めるより、イエス様の弟子たちを非難する一方でした。宗教指導者たちは、まず、イエス様の弟子たちに非難しましたが、実は、彼らはイエス様に非難したわけでありました！

30節「すると、パリサイ人たちや彼らのうちの律法学者たちが、イエスの弟子たちに向かって、小声で文句を言った。「なぜあなたがたは、取税人や罪人どもと一緒に食べたり飲んだりするのですか。」

当時宗教指導者たちは自分たちの聖さの基準とルールを作り、罪人たちと一緒にしないこと、彼らと交わるのを避ける事が聖さだと思い込み、守っていました。

当時宗教指導者たちは、自分の信仰の聖さを保つために、罪人たちの部類の人々と接触しなければ、自分たちも汚れ、聖さを維持することが出来ると信じ込んでいたため、今罪人たちと共にするイエス様を非難したわけでありました。

しかし、イエス様はあなたたちが罪人たちと接触しないことで、罪を犯さないのではなく、もともとあなたたちはみんな罪人たちであると教えて下さっています。ですから、まことの神の前での聖さは罪人たちと接触しないことではなく、今日のこのマタイという収税人のように、イエスキリストを迎え入れ、共にすることこそが真の聖さであり、そのイエス様のように、助けが必要な人々たちに対し、神の愛と哀れみを持って、隣人となり、その人たちの助けとなってあげる行動こそ、聖さを保つ姿勢だと教えて下さったわけでありました。イエス様と共にする人々は世の人々と接触しないで生きる人ではなく、かえって世の人々と接触しながら、彼らを聖くさせれることが本当の聖さであるわけなのです。

イエスキリストの救いと命を分かち合うために、彼らの真の友となってあげる事が聖さだとご自身の行いを持って見せて下さいました。彼らのまことの必要を知り、イエスキリストの御名によって、イエスキリストの愛を、イエスキリストの救いを、イエスキリストの自由と命を頂けるように、彼らを助け、分け与え、仕えるのがまことの聖さであることを見せて下さいました！その人々が私のように、キリストにある祝福された人生として生きることが出来るように助けてあげることが聖書で教えている聖さであります。

31-32節にイエス様は次のように語って下さいました。「そこでイエスは答えられた。「医者が必要とするのは、健康な人ではなく病人です。32わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためです。」イエス様は罪人を呼んで何をなさろうとされましたか。負っている罪を悔い改めさせ赦し、救われるようにさせるためでした。

愛するクリスチャンプレイズの信仰の家族のみなさん！この世の中で完全な義人(まったく罪のない人)がいるでしょう

か。一人もいないという言葉はひっくり返しますと、この世の中にいるすべての人たちはみんな罪人であるという意味になるでしょう。そうです。聖書にも、「**義人はいない。一人もいない。(ローア3:10)**」

聖書にも自分が罪のないという人は神の前で偽りをする者で、嘘であると指摘して下さっています。

ヨハネの手紙第一1章9-10節、「もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。10もし罪を犯してはいないと言うなら、私たちは神を偽り者とすることになり、私たちのうちに神のことはありません。」

ですから罪人である人には一つの方法しかありません。**自身が罪人であることを認めるか、断わるかしかありません。**この認めと拒否を決定させるのは何でしょうか。**自分の心の態度**によるでしょう。**神様の御前で人が犯す一番恐ろしい罪**と言え**ば私は高慢、高ぶりの罪だと信じています！**聖書によると、サタンは本来、天使でしたが、墮落してしまい神を対抗するサタンになってと教えて下さっています。なぜ、その天使が墮落してしまったのですか。自分は神のようにおよぼせると高慢になり、神のようになれるかのような高ぶりが結局墮落させてしまったのです。**どうして、高慢が一番恐ろしい罪なの**でしょうか。**自分はいつも正しい、自分には罪何かまったくくない！神見たいに自身の中で正しい基準も、罪の基準も作って自分には全く問題がないのだ、だから神何か要らないと叫び、拒否することこそ神の御前で高慢な罪ではない**でしょうか。**自身の罪を認めないで悔い改めの断わり、拒否させるのが高慢、高ぶりであるから**です。高慢は、自分の足りなさ、自分の罪が見られないようにさせます。

みなさん、イエスキリストを信じることを難しくさせるのか何かご存知ですか。金持ちなので、生活に困ってないから、自分は生活にまったく問題ないと思うようにさせる高慢、自分には罪がないと、認めたくないようにさせる高慢、ですから、このような高慢は人がイエスキリストを迎え入れないように邪魔させ、神の救いを受け入れられないように妨げています。信じた者たちの信仰を成長と、神様との交われるのを妨げるものであります。

ここに集っているみなさんは、神の前で自身が罪人だと認めていますか。断わりますか。ご本人の選択によります！教会は罪人が集っているところです。罪赦された罪人、救われた罪人の集いであります！

世の中、義人は一人もいません！私も、みなさんも、世の全ての人々はみんな神の前で罪人であったので、御子イエスキリストが罪人を呼んで、罪の鎖から解放させ、救う為に来られたのです！罪人を呼んで、彼らに赦しと救いを、そして、新しい人生与える為でした！イエス様は罪人を救うために来られました。イエス様は罪人である私を、みなさんを救うために来られたのです。愛するみなさん、いよいよ来週クリスマスを迎えながら、私たちもイエス様のように、我らが必要とする人、私の助けが必要とする人々を拒否しないようにしましょう。

イエス様はこの世に来られ、罪人たちとともに食卓の交わりをともにしながら、彼らの友となって下さいました。罪赦しの恵みと救いの喜びをともに味わい、ともに体験し、どんな罪人であってもともに食事が出来る神の家族として受け入れて下さいました！

我らの教会の中にも、熱心にそのイエス様の姿を見習って行こうとする美しい信仰を持っている方々が多くいらっしゃいますが、その中で何方よりも、私は一番イエス様と似た方々の姿といえば、特に今までご自身の家を喜んで開いて下さった家の教会の牧者たちだと信じます！牧者たちは、自分で人を選ばず、助けが必要としている人々がいるなら、何方も牧者の家に招き、ともにして下さいます。今年も全体のクリスマス集會の変わりに、各牧場でクリスマス会を開くことになりました！是非レビマタイのように、イエスキリストとともに、最近牧場に来てない方々やVIPを招いて共に祝う機会として、用いてください。

みなさんの家庭にも、生きておられるインマヌエルの主イエスキリストとともにおられ、交わりつつ、神の愛と恵みを頂き体験出来るCPC全神の家族となりますように主イエスキリストの御名によってお祈り申しあげます！しかし、そこだけで満足せず、今もみなさんの周りにさまよっている罪人たちを両手開いて招待しましょう。神の救いを必要とする人々を歓迎し迎え入れ、ともに幸いな交われる機会が与えられますようにお祈り申しあげます！また今年もクリスマスを迎えながら、世の全ての罪人を救う為に来られ、今も我らと共におられるインマヌエルの救い主イエスキリストがみなさんとみなさんの家庭、みなさんの牧場が神の救い、祝福の通路として豊かに用いられる幸いな時期となりますように主イエスキリストの御名によって祝福します！アーメン！！